



ハイブリッドの 動物図鑑

長澤伸穂

アートワークショップ

令和5年度特別展「吉川千香子 土と火の遊び－無邪気な(非)器たち」の開催にあわせ、吉川と1984年に愛知県常滑で出会い、交流を深めてきたアーティスト長澤伸穂を招き、子どもを対象としたワークショップを開催します。

人間の活動による環境破壊や汚染は、数多くの動物の生息地を脅かし、絶滅の原因となっています。さらに、地球の温暖化は気候変動を加速させ、季節の変化や生態系のリズムにも影響を与え、動物たちの生存戦略や繁殖に大きな変化をもたらしました。その結果、動物のハイブリッド化という現象が起きています。このような問題点を説明した後、子どもたちは現実の動物とは異なる特徴や能力を持ち、環境変化に対応するために進化を果たしたハイブリッドの動物を想像しながら、クレヨンで絵を描き、それらは特別展の一部として、2階展示室の「吉川千香子展」の一角で発表されます。

この展示では、子どもたちが描いた架空の動物の絵が一つのテーマを共有しながら展示され、環境問題や生態系の変化への意識を高めることを目的としています。この企画は吉川千香子の生み出した動物たちの作品とともに、地域の子どもたちが描いたドローイングを同時に掲示するという長澤伸穂の「ソーシャリー・エンゲイジド・アート」です。ワークショップの間、子供たちはサン・サーンズ「動物の謝肉祭」の音楽を鑑賞します。

***長澤伸穂**(ながさわ のぶほ)

東京出身で、幼少期をオランダで過ごし、高等教育をオランダ、ドイツで受け、ベルリン芸術大学で修士号を獲得後カリフォルニア・インスティテュート・オブ・ザ・アーツ(CalArts)で現代美術、美術批評と音楽を学ぶ。ドイツの芸術家、ヨーゼフ・ボイスの提唱した「ソーシャル・スカルプチャー」(人間は誰でもアーティストであり、人間の創造性は社会の基礎に最も重要なツールである)という考えに共感し、1980年代後半より世界を舞台に、コミュニティへの参加や協同といった実践を行なうことで、社会的価値観の変革を促すきっかけになるプロジェクトを開始。2001年よりニューヨーク州立大学ストーニーブルック校教授。2016年以降演劇学部兼任教授。建築や都市でのサイトスペシフィックなアート作品を世界各地の国際展で発表し受賞歴がある。日本でも数々の美術館をはじめ、越後妻有大地の芸術祭や瀬戸内アートトリエンナーレ、中之条ビエンナーレ、徳之島アートプロジェクトなどに出品。北海道では2012年に十勝千年の森より招待され、作品を制作する。

【日時】 2023年8月5日(土)

開場 10:00/終了 13:00

【対象】 小学校1～6年生程度 20名

※小学校3年生以下の方は保護者同伴

【会場】 市立小樽美術館 1階

研修室/ミーティングルーム

【申込み】 電話受付(先着20名様)

☎0134-34-0035

※7月1日から受付開始

完成作品は、展覧会終了(～9月17日)まで特別展会場で展示し、終了後にお返しいたします。



特別展 吉川千香子
YOSHIKAWA CHIKAKO

土と火の遊び－無邪気な(非)器たち

2023 7.29^{sat}～9.17^{sun}

吉川千香子は、日本古窯のひとつである愛知県常滑市を拠点に作陶活動を行っている陶芸家です。北海道小樽市に生まれ、潮陵高校卒業後、上京して武蔵野美術大学で彫刻を学びます。当時石彫を手掛けていた吉川は、偶然常滑で見た大窯の素朴な力強さに惹かれ、陶芸の道に進みました。以後まったくの独学で技術と表現を模索し、従来の陶芸のイメージを覆すような作品を制作しています。

作品の主題は、「ひと、動物、花」。あらゆる生き物たちの姿に興味を抱き、愛情深く寄り添う中で、やさしく素朴なフォルムが生まれています。

【休館日】 毎週月曜日、8/15(火) 【開館時間】 9:30～17:00(最終入館16:30)

【観覧料】 一般:600円、高校生・市内高齢者300円、中学生以下 無料

※長澤伸穂アートワークショップご参加の方はご招待いたします。